

植物園、バラ園、ロックガーデン、野菜園、多年生植物園、ハーブ園(写真-2)、矮性松柏類園、樹木園などのほか、鳥小屋、蝶温室、学生寮(写真-3)があり、植物および景観の維持管理に学生を従事させることなどで、園芸教育や景観教育の理論と実践の場として利用しているとのことであった。実際、植物園内の案内や

質疑応答を担当してくれたのは学生達であった。

会議最終日の前夜、全ての集会終了後に盛大な祝賀晩餐会が催された。舞台では、会議役員挨拶、論文賞授賞式などに引き続き、次回2006年の開催国である韓国からの挨拶と華やかな民族舞踊の紹介などがあり、本会議場での会議は成功裏に終了した。

## 外来(帰化)雑草・豆知識 (4)

### — ウキアゼナ —

平成14年の秋、群馬県の農家から「休耕田にウキアゼナが繁茂して困っているが防除法はないだろうか」というお便りをいただいた。

ウキアゼナは水田の雑草としては、今まであまり話題にあがっていないが、現実にはかなり発生しているのではないだろうか?。ただそれがウキアゼナと気付いていないだけではないか、こんな疑問を持った。そこで今回はウキアゼナをとりあげた。

#### ウキアゼナ [ゴマノハグサ科]

*Bacopa rotundifolia* Wettst

北アメリカ原産の一年生草本。北アメリカ、東アジアなどの温帯～亜熱帯に分布し、浮葉性の水性雑草である。茎は円柱状でやや多肉質の白色の毛を布き、水中にのび長さ20～60 cmになる。通気孔が発達しており、よく分岐

して水面に浮き、また節から発根して広がる。湿地に生える場合は直立する。葉は対生し、幼時には長楕円形、生長すると円形～倒卵形、通常は光沢のある濃緑色、長さ1～3cm、幅1～2.5cm、10本前後の掌状脈が葉の裏面で明瞭に見える。夏～秋に葉腋に数個の花を着け、花冠は白色、5裂して直径約8mm、4本の雄ずいなど他の水草にない特徴を持つ。種子繁殖する。春に発生し、花期は夏～秋。昭和29年(1954年)に岡山県一宮町で見いだされ、昭和30年代には兵庫県、愛知県でも発見され、熱帯魚用の水草として輸入したものが逸出したともいい、現在では東海から九州地方にかけて分布している。水路、水田、イグサ田、水をはった休耕田などの水湿地に発生して、一部では雑草として問題になっている。⑤

(日本帰化植物写真図鑑、全国農村教育協会発行より転載)



▲ウキアゼナ成植物



▲果実をつけたウキアゼナ